

劇場型選挙とか郵政選挙と盛んに喧伝された第44回衆議院選挙は、終わってみれば、自民党の正に歴史的な大勝利である。変人首相、勝負師、執念の人の面目躍如と言うか、小選挙区比例代表並立制と云う選挙制度のある一面を見事に表した選挙であった。

自民	296
民主	113
公明	31
共産	9
社民	7
その他	24

この選挙結果を受けて(結果判明前にも居たが・・)、参議院で郵政民営化に反対票を投じた所謂造反議員の寝返りが相次いでいる。民意が示されたからにはそれを重く受け止めたというものが彼等の論理だが、何となく釈然としない気持ちになるのは小生のみではあるまい。余りにも無節操振りに驚きを禁じ得ない。政治家は己の信条を吐露し、その結果選ばれたものであるからには、その信念を飽くまでも貫くべきである。寄らば大樹の陰、大勢に従い権力に擦り寄るといふのでは、悲しすぎる。

さて、問題はこれから何を為すかという事である。多分向こう3年以上は総選挙は行われないであろう。その間に参議院選挙があるのみである。今回の総選挙の焦点であった郵政法案の処理が終わったならば、第3次小泉内閣は、郵政法案と同じ位の執念というか熱意を持って、数多の内外の重要課題に精一杯取り組んで欲しいものである。その幾つかを列記する。

#### ① 憲法改正

戦後60年の今日、所謂マッカーサー憲法から脱却して21世紀の日本の骨格を成す新たな憲法を創造すべきである。国防軍の設置を明示し、集団的自衛権行使を認め、国家非常事態基本法を制定すべきである。衆参両院で自民、公明、民主の調整が成されれば憲法改正は国民の世論調査結果をも踏まえると十分に可能である。今を措いて憲法改正の好機はない。加憲・創憲など言い方はどうでも良い。21世紀の日本に相応しい憲法への改正をして貰いたい。共産党や社民党の安全保障や憲法感は既に遺物と化した。今日の現実にマッチした憲法改正こそ国民大多数が望むものである。今次選挙の争点ではなかったとしても、民意は明らかである。

#### ② 教育基本法の改正

今日の日本社会のやり場のない諸悪の根元は教育の荒廃にあると思わざるを得ない。戦後60年の総決算の憲法と並ぶ最重要課題である事に異論はあるまい。公明党が慎重であり、予断を許さないが、…。阿るばかりが能ではあるまい。守るべきものをきちっと守り、日本の伝統を大事にする社会、利のみにて動くのではなく公の為に応分の分担を為す事を当然とする社会を再生するには先ず学校のみではない社会・地域や家庭の教育を変えねばならない。

#### ③ 社会保障制度の抜本的改革

急速な少子高齢化(2007年問題の一つといわれる人口減社会が到来し始めている。)と医療や年金などの社会保障費の増大は抜本的な社会保障制度改革が喫緊の課題である事を如実に示している。もう、待った無しの状況におい込まれている。状況を等閑視し

てきたツケが来ているのだ。

④ 行財政改革の推進

国と地方あわせた長期債務は、800兆円近くに膨れ上がっている。先進国で最高だという、誠に恥ずかしい話だ。歳出削減、歳出削減だけを念仏の如くに言えば良かった時代はとっくに過ぎている。仮に、国民に痛みを強いる事であっても、為さねばならぬ事は多々ある。その一つが消費税の引き上げであろう。国民に甘い蜜のみを与える事だけが政治家の為すべき事ではない。

⑤ 近隣諸国との対応に筋を通し、協調出来る体制の構築を

北朝鮮の核問題や拉致等への対応、韓国や中国との島嶼の領有を巡る軋轢や北方領土問題、東シナ海排他的経済水域における資源権益の確保にかかわる日本としての対応、中韓の民族ナショナリズムや歴史認識への対応、靖国神社参拝問題等、日本周辺波高しである。何時までも放置する事は許されない。主張すべきは主張し、毅然として対応しつつ、戦略的協調体制を構築する事が重要だ。今の内閣の弱点は外交か？ 目をアジア以外に転じれば、日本の外交のひ弱さというかきちんとした筋が見えてこない。外務省や外務大臣の責任は大きいし、何よりも首相の、郵政選挙で見せたような強いリーダーシップが必要だ。

以上重要と思われる課題を列举してもこれだけある。付帯して検討すべき事項をも挙げれば、キリがないだろう。小泉首相の任務というか使命は郵政だけであって良い筈がない。何方が選ばれるのか解らないが、後任の首相に重い課題を押し付けてはなるまい。少なくとも、この中の幾つかには道筋をつけてこそ日本国の責任者であろう。郵政しかやらなかった首相などと後世揶揄される事ないように願って止まない。

(了)